

NEWS RELEASE

2009年5月12日
コベルコクレーン株式会社

コベルコクレーン 2009年3月期 決算概要

【2009年3月期の概況】

海外のクレーン市場は、世界的な金融危機の影響により、10月以降急激に市場環境が悪化しました。大型プロジェクトを中心としたエネルギー関連投資を継続してきた中東はもとより、インフラ及び産業基盤の整備により新車需要の拡大が続いていた東南アジア、石油化学・電力等のプロジェクトへの投資を計画的に進めてきたインドなどの新興国も例外ではなく、資金調達難によるプロジェクトの延期や中止が相次ぎました。加えて、為替が急激に円高に振れたことにより、韓国、東南アジアを含めた円建契約エリアにおいては、ユーザの実質購入価格が高騰する結果となり、多くの引き取り延期やキャンセルが発生しました。

国内のクレーン市場においても、設備投資計画見直しや不動産不況の影響により、上期から軟化傾向を見せていたホイールクレーン需要は下期以降激減し、中古車再販価格も急落する結果となりました。また、当初比較的堅調に推移すると見られていたクローラクレーン市場も、徐々に後退局面に入りつつあります。

このような環境の下、当社は、受注残の着実な出荷と柔軟な客先対応により、下期の売上最大化に取り組まれました。また、コストダウンや経費削減など、全社で収益改善に取り組まれました。

受注残の着実な出荷と、北米など重点取組地域への販売促進
更なるラインナップ強化に向けた新機種の開発推進
収益力アップに向けた更なるコストダウン推進
リセッションに備えた事業基盤整備

これらの取り組みにより、当期のクレーン新車販売台数(全クレーンメニューの総台数)は約920台を達成し、前年度比で約8%の増加となりました。(07年度の新車販売台数は約850台)

収益面でも、当初計画比で未達となりましたが、07年より販売開始した大型クローラクレーンの販売が総じて好調で、収益面で大きく貢献しました。また、好調であった上期の実績と前年度からの受注残により、未達額を最小限にとどめることができました。

これらの結果、コベルコクレーンの2009年3月期(2008年4月～2009年3月)の業績は、連結の売上高で前年度比約1.2倍、経常利益で前年度と同程度の収益を確保することができ、06年度からの中期3ヵ年計画最終年度としても、計画を大きく上回る結果を残すことができました。

< 2009年3月期の実績 >

{単位:百万円、()内は前年同期比}

		売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
連結	2009年3月期	85,227 (+19.6%)	9,492 (+2.2%)	9,015 (-1.4%)	6,026 (+14.1%)
	2008年3月期	71,231	9,289	9,143	5,282
単体	2009年3月期	81,473 (+15.0%)	7,270 (-15.8%)	6,836 (-23.6%)	3,930 (-25.0%)
	2008年3月期	70,843	8,639	8,949	5,242

連結の売上高は国内向けが317億円(前年度比+23.5%)、海外向けが535億円(同+17.4%)となり、全体としては852億円(同+19.6%)となりました。

【2008年度の事業別状況】

海外市場

海外市場においては、上期は全エリアとも堅調に推移しましたが、下期以降は市場環境激変の中、08年度の新車売上の最大化を図るとともに、将来に向けたストックビジネス等の事業基盤の構築と整備に取り組みました。

一般景気の停滞感が強い北米市場においては、北米内でのエリア別の濃淡を強めながらも、風力発電などの環境・エネルギー関連やハイウェイ整備などの工事が継続していることから、クレーン需要は比較的堅調に推移しているといえます。この状況の中、代理店・サービス流通網などの更なる拡大を図り、部品拡販やサービス体制強化に向けた基盤づくりを行いました。

景気後退が鮮明になりつつある欧州においては、新規エリアの開拓に取り組むとともに、部品拡販活動を中心として、部品・サービス活動の強化に取り組みました。

数年来、鉄道や空港、石油化学関連設備の建設などのメガプロジェクトが続いてきた中東市場においては、金融危機によるプロジェクトの延期や中止が相次ぎ、10月以降クレーン需要は急激に減少し、また、為替が急激に円高に振れたことで、前期からの受注残案件についても引き取り延期やキャンセル希望が多数発生しました。このような状況の中、代理店との同行販売により販売力の強化を図り、また、現地での顧客満足度向上に向けて、倉庫を持つ事務所に移転し、サービス部品の在庫販売を開始しました。

インフラや産業基盤の整備により新車需要の拡大が続いていた東南アジアにおいても、世界的な景気後退の影響を受け、新車引合は減少しましたが、サービス性向上に向けた部品在庫の拡充などに取り組み、売上は順調に推移しました。

マーケティングおよびサービス体制強化の一環として、昨年10月に現地駐在員事務所を設立したインド市場においても、他のエリア同様に納期延期やキャンセルが相次ぎましたが、通年では前年度比で約2倍の販売台数を確保することができました。

また、為替が急激に円高に振れたことにより、その他の円建契約エリアにおいてもキャンセル案件が多発しましたが、エリアを越えた機械のやりくりや新規受注の取り込み等、売上の最大化に努めました。その結果、主力のクローラクレーンの海外向け販売台数は、前年度比で約5%増となりました。

国内市場

クローラクレーン新車市場においては、下期後半から徐々に需要が減退傾向にありますが、通年での需要は前年度比26%増と好調に推移し、当社もこの新車需要拡大に対応して受注残を確実に出荷することで、販売台数を伸ばすことができました。

ラフテレーンクレーン市場においては、足元の工事量減少に伴う稼働率の悪化や、建設・不動産業界への金融引締め等の影響で、市場は確実に後退局面に入っており、需要は前年度比24%減となりましたが、6月に販売を開始し、2008年度グッドデザイン賞を受賞したシティコンシャスクレーン、パンサーX(エックス)250の市場浸透を中心として、ホイールビジネス強化に取り組みました。

生産面においては、国内外の受注残案件の確実な出荷対応を目指して、取引先の協力のもと、ジャストインタイム生産方式により、リードタイムの短縮、生産効率アップを図り、生産台数の増減に柔軟に対応できる体勢作りに取り組みました。

サービス面においては、08年4月より販売開始した遠隔稼働管理システムKCROSSを活用し、顧客満足度の向上を図るとともに、サービス体制の変革にも取り組みました。

また、08年4月に設立した中古車専門会社のコベルコクレーントレーディングは、下期以降中古車市場が激変し、中古車価格が急激に下落したため、在庫圧縮が最優先の課題となりました。

他社との提携関係

米国マニトワック社へのクローラクレーンのOEM供給については、引き続き順調に推移し、前年度並みの販売台数を確保することができました。また、更なる生産性向上や開発効率化などを図るべく、連携強化を引続き検討してまいります。

ラフテレーンクレーンについて、小型機種本体のOEM供給を受けているタダノ社との提携関係においても、有効な提携関係を維持することができました。今後も引続き緊密な協力関係を継続していきたいと考えております。

【今後の重点課題と2009年度の見通し】

09年度の事業環境は、不安定な為替動向や、金融不安などの収益圧迫要因により、極めて先行き不安定な状態にあります。

このような状況の中、守りの経営を基本としながら、下記の重点課題に取り組むことで、将来に繋がる施策を確実に実行し、事業基盤の更なる強化を図ってまいります。収益面では、基本に立ち返り、受注残の確実な売上と地道な受注活動、コストダウン活動を展開し、収益確保を図ってまいります。

< 重点取り組み課題 >

安定生産体制の強化とコストダウンの実行
 提携パートナーとの協力体制の継続による収益拡大
 国内外の流通整備および新興市場での販売サービス体制整備
 シティコンシャスクレーンを核とした更なるホイールクレーンビジネス強化
 中古車会社事業の早期立直しとサービス部品販売網の拡充によるライフサイクルビジネス強化
 世界トップメーカーを見据えた事業基盤強化と体質強化

< 2009年度の見通し >

{単位:百万円、()内は前年度比}

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
連結	82,000 (3.8%)	3,800 (60.0%)	3,600 (60.1%)	1,600 (73.4%)
単体	73,000 (10.4%)	2,100 (71.1%)	3,800 (44.4%)	2,200 (44.0%)

* 2009年度における為替レート前提: 1米ドル=95円、1ユーロ=120円

上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後の様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

以上

会社概要

社名	コベルコクレーン株式会社		
英社名	KOBELCO CRANES CO.,LTD.		
創立	2004年4月1日		
本社所在地	東京本社:東京都品川区東五反田2-17-1	代表	03-5789-2130
資本金	63.8億円 (株)神戸製鋼所 100%		
代表取締役	丹野 宜弘(たんの よしひろ)		
事業内容	建設機械の開発、生産、販売並びにサービス		
ホームページ	http://www.kobelco-cranes.com		

平成21年3月期 決算業績概要

会社名 コベルコクレーン株式会社
 代表者 代表取締役社長 丹野 宜弘
 問合せ先責任者 経営企画本部長 砂河 利文 : 03(5789)2130
 決算取締役会開催日 平成21年4月28日
 親会社 株式会社神戸製鋼所(当社株式の保有比率:100%)

1. 平成21年3月期の連結業績(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(1) 連結経営成績

	売上高	営業利益	経常利益	(当期)純利益	一株当たり (当期)純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
21年3月期	85,227	9,492	9,015	6,026	58,060.20
20年3月期	71,231	9,289	9,143	5,282	50,898.37
19年3月期	56,407	5,172	4,957	2,971	-

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	一株当たり 純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
21年3月期	56,089	31,338	55.9	301,911.77
20年3月期	49,935	28,527	57.1	274,835.16
19年3月期	41,945	24,157	-	-

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 の期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
21年3月期	2,330	2,343	107	2,979
20年3月期	3,744	2,711	520	3,099
19年3月期	4,274	1,387	1,338	2,586

2. 平成21年3月期の個別業績(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(1) 経営成績

	売上高	営業利益	経常利益	(当期)純利益	一株当たり (当期)純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
21年3月期	81,473	7,270	6,836	3,930	37,864.88
20年3月期	70,843	8,639	8,949	5,242	50,502.91
19年3月期	54,181	4,379	4,185	2,454	-

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	一株当たり 純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
21年3月期	54,208	28,722	53.0	276,712.08
20年3月期	48,881	27,662	56.6	266,502.82
19年3月期	40,570	23,493	-	-

(3) キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 の期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
21年3月期	1,581	2,197	676	137
20年3月期	2,590	2,729	520	77
19年3月期	3,805	2,218	1,161	736

3. 平成22年3月期の業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
連結(通期)	82,000	3,800	3,600	1,600
個別(通期)	73,000	2,100	3,800	2,200

上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。
 実際の業績は、今後の様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。